

(事業再開等を果たされた事業者のみなさま)

(公益社団法人福島相双復興推進機構)



<はじめに>

私たち福島相双復興官民合同チームは、これまでに約5,300の事業者の方々を訪問・支援させて頂いておりますが、そのなかで、復興やまちづくりに熱い想いを持つたくさんの方々のお話をうかがうことができました。

事業再開や開業に当たっては、多くの事業者がさまざまな悩みや苦労を抱えながらも、「相双地域の復興のために」「愛する故郷に活気を取り戻すために」という想いのもと、着実に歩みを進めておられます。

その方々の取組みをほんの一例ではございますが、冊子としてとりまとめさせて頂きました。今回、第3弾として20の事業者をとりまとめさせて頂きましたので、ぜひご一読ください。

この冊子以外にも、奮闘する多くの事業者をホームページやフェイスブックでご紹介しておりますので、こちらも併せてご覧ください。

ホームページ:

<https://www.fsrt.jp/activity>

フェイスブック:

<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/?fref=ts>

QRコード



QRコード



掲載事業者の所在地・電話番号・HP/FBアドレス

事業者	現所在地	電話番号	ホームページ／フェイスブック	頁
FB代行運転サービス ※浪江町	浪江町大字川添字佐野15-1	080-2808-0281		1
小高ストア(指定管理者:有限会社丸上青果) ※南相馬市	南相馬市小高区上町1-56	0244-26-6270		2
医療法人相雲会 小野田病院 ※南相馬市	南相馬市原町区旭町3-21	0244-24-1111	http://www.onodahp.or.jp/	3
Odaka Micro Stand Bar(オムスビ) ※南相馬市	南相馬市小高区東町1-67	090-3716-0594	https://www.facebook.com/odakao.msb	4
カットハウスビーズ ※富岡町	富岡町本岡字関ノ前167-4	0240-22-7548		5
葛尾じゅうねん企業組合 ※葛尾村	葛尾村大字落合字西ノ内44-1	024-983-7594	https://katsurao-juunen.com/	6
カフェ大百笑 ※大熊町	いわき市郷ヶ丘2-34-4	0246-38-8917	https://daibyakusho.jp/	7
氣まぐれ茶屋ちえこ ※飯舘村	飯舘村佐須字佐須200	0244-42-1303		8
Diner Bonds(ダイナーボンズ) ※南相馬市	南相馬市小高区東町1-59	0244-44-2983	https://www.facebook.com/bonds.diner.7	9
武ちゃん食堂 ※檜葉町	檜葉町井出字木屋126-9	0240-25-2450		10
テラス石森(一般社団法人Switch) ※田村市	田村市船引町石森字館108	0247-61-7575	https://switch-terrace.com/	11
豊嶋歯科医院 ※浪江町	浪江町権現堂字南深町8-2	0240-23-5633	https://toyoshimadc.jp/	12
陽なたぼっこ ※檜葉町	檜葉町大字井出字八石36-4	090-9039-0200		13
ヘアサロン花井 ※飯舘村	飯舘村臼石字町168	0244-42-1461		14
ベーカリー リヴィエール ※川内村	川内村大字上川内字早渡11-33	0240-23-7176		15
ぽてと(株式会社 まつばら) ※南相馬市	浪江町大字幾世橋字芋頭27-1	0244-23-3382		16
南相馬アニマルクリニック ※南相馬市	南相馬市原町区陣ヶ崎114-1	0244-26-9045	https://www.minamisoma-vet.com/	17
居酒屋 美穂 ※川内村	川内村大字上川内字早渡7-11	0240-38-3369		18
社会福祉法人友愛会 ※富岡町	広野町大字下北迫字東町203-1	0240-23-6306	http://www.yuaikai.net/	19
食事処 輪 ※双葉町	いわき市勿来町酒井青柳14-4	0246-84-9774	https://www.shokujidokoro-rin.com/	20

F B 代行運転サービス（サービス業・浪江町）



代表の門馬さんと奥様



事務所前にて



新しい車両2台

- 「FB代行運転サービス」の門馬さんは、浪江町で実兄が経営する代行運転会社に勤務後、震災の3年前に独立開業。平成22年にご子息も代行運転に加わり、平成23年4月には法人化する予定でしたが、震災により休業、避難を余儀なくされました。
- 震災後は、ボランティアで浪江町の見守り隊に参加していましたが、浪江町で開業した居酒屋や飲食店から、「早く代行運転を開業してもらいたい」との要望もあり、開業する意思を固めました。
- 平成30年11月、浪江町で運転代行業として町民に親しまれていた「FB代行運転サービス」が、7年10ヶ月ぶりに新店舗を構え再開しました。門馬さんは、「皆様の足となるように頑張ります」と意気込んでいます。

※社名の「FB」にはF（ファミリー） B（ビック）：大家族のような会社になりたいとの願いが込められています。

小高ストア（指定管理者：有限会社丸上青果）（卸売業/小売業・南相馬市小高区）



丸上青果 岡田代表



小高ストア外観



店内売り場

- 丸上青果は青果の卸売業を行う事業者であり、震災当時に他県から青果を仕入れ地元で販売するなど、被災者ニーズにも対応する事業を展開してきました。
- 平成30年4月、南相馬市は新設する公設民営商業施設（小高ストア）の指定管理者を募集しました。岡田代表は、帰還した住民の利便性を向上させたいとの思いから、過去に経験したスーパー経営のノウハウを活かせると考えて応募し、指定管理者となりました。
- 小高ストアは、平成30年12月のオープン以降、青果、惣菜など食品を中心とした地元スーパーとして定着しつつあります。地元の人たちが何を求めているかを考え、ニーズに合った商品を提供しながらスーパー経営を行い、小高とともに発展していきたいと考えています。

医療法人 相雲会 小野田病院（医療業・南相馬市原町区）



小野田病院院長



外来棟及び腎透析センター外観



敬老会の様子

- 「小野田病院」は、昭和34年に南相馬市原町区で診療を開始して以来、地域医療の充実を担い、地域になくてはならない医療機関として住民の皆さんを支えてきました。
- 震災避難による職員の減少や病棟損壊など困難な問題に直面しながらも、地域医療を守るため平成23年4月には外来診療を再開し、同年7月に一般病棟を再開。10月に療養病棟を再開しています。
- 令和元年5月より、医療と介護が必要な高齢者のための長期療養・生活の施設として、介護医療院を開設しました。市民の皆様がいつまでも、元気で安心して生活できる地域社会を目指し診療しています。

Odaka Micro Stand Bar（オムスビ）（飲食サービス業・南相馬市小高区）



オーナーの森山さん



お洒落な店内



こだわりのスペシャルティコーヒー

- オーナーの森山さんは、大阪の出身。東京のIT関係の会社を退職し、「日本の課題解決力を向上させるような取り組みを行いたい」と、震災後、様々な課題が山積していると耳にした、南相馬市へ移住します。
- 平成29年12月に小高区へ移住後は、ITエンジニアとしての知識を活用し、地元企業のホームページ制作や、小高の高校でプログラミング講習を行う傍ら、様々な人が集まれる場所を提供したいとの思いから、キッチンカーを利用したカフェの営業を開始しました。
- その後、平成30年6月に「色々な年代の人が集まることで、今まで触れることのなかった価値観に出会い、そこから新しい何かが生まれるような場所になれば」と、小高駅前に念願の店舗型カフェ「Odaka Micro Stand Bar」をオープン。現在、カフェの営業の他、「IT寺子屋」、学生中心でまちづくりの課題解決を目指す「まちづくり部」の運営にも携わっています。

カットハウスビーズ（理容業・富岡町）



店舗外観



カットスペース



店内の交流スペース

- オーナーの猪狩さんは、平成5年に富岡町で美容室を開業。平成16年に現在の場所に美容室「カットハウスビーズ」として新装オープンし、地元の幅広い年代のお客さまに愛される美容室になりました。
- 被災後、避難先のいわき市で、以前のお客さまから「またカットしてほしい」との声を多く受け、富岡町に戻って再開することを決意しました。店舗再開に伴い設備を一新、お店の周りは花や木が綺麗に手入れされ、平成30年5月、「カットハウスビーズ」は再開を果たしました。
- 現在は、予約を優先し営業中。男性客も受け付けています。美容室の入口は、お茶などを飲みながら語らえる、交流の場として提供しています。

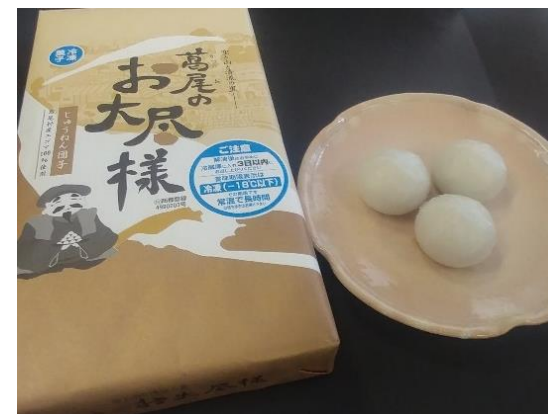
葛尾じゅうねん企業組合（複合サービス事業・葛尾村）



商品お披露目会の様子



「エゴマ油」



「葛尾のお大尽様」

- 葛尾村で採れるエゴマ（じゅうねん）を特産品にしようと、組合を立ち上げたのは平成19年。「葛尾のお大尽様」等を、村内のお店、JAや合同庁舎の売店などで販売していましたが、震災により休業を余儀なくされました。
- 平成29年、商品復活プロジェクトが始動。組合メンバー、葛尾村役場、郡山女子大学が一体となり、エゴマ苗植えの段階から参画。エゴマに関わる市場性や将来性について議論を重ね、1年以上の歳月を経て、平成30年4月、ついに葛尾村産のエゴマを使ったおまんじゅう「お大尽様」と「エゴマ油」の販売を再開しました。
- 「美味しく懐かしい味がする」、「爽やかな油の香りを感じることができた」などの高い評価を得て、多くの方に葛尾のお土産として喜ばれています。「お大尽様」と「エゴマ油」は、葛尾村の小売店、同組合のホームページなどで購入することができます。

カフェ大百笑（飲食サービス業・大熊町→いわき市）



渡邊さん(中央)と従業員の皆様



ドーム型の店舗



キウイを使ったマフィン

- 事業主の渡邊さんは震災前、大熊町で有限会社マルシン建設を営む傍ら、水稻やアスパラガス、キャベツなどを栽培していました。地元農家の所得を上げたいとの思いから、キウイ栽培にも着手。町議としてもキウイを町の特産にしようと、農業振興に取り組んできました。
- 震災後、しばらく栽培から離れていましたが、平成25年に避難先のいわき市でキウイ栽培を再開。収穫したキウイを直売し、加工した商品を販売する場として、平成30年1月、こだわりのキウイデザートを提供するドーム型カフェ「大百笑（だいびゃくしょう）」をオープンしました。
- 土づくりからこだわり、有機栽培で育てたキウイは安心安全。糖度20度以上のとっても甘いキウイ（レインボーレッド、東京ゴールド、ヘイワード、ゴールデンキング）を使ったスイーツと、こだわりの焙煎コーヒーが自慢です。

氣まぐれ茶屋ちえこ（どぶろく製造、飲食業・飯舘村）



事業主の佐々木さん



店舗外観



週替わりランチメニュー

- 「氣まぐれ茶屋ちえこ」の佐々木千栄子さんは、平成17年に飯舘村が「どぶろく特区」に認定されたのを契機に酒造免許を取得し、どぶろくの製造販売と共に、地元の食材や凍み餅等の加工品を提供する地産地消の農家レストランを経営していました。
- 経営が軌道に乗ってきた矢先に震災に見舞われ、避難を余儀なくされました。しかし、平成23年9月に避難先である福島市で、どぶろくの製造・販売および凍み餅等の製造・販売も再開しました。
- これと併せ、飯舘村での営業再開の準備を着々と進め、令和元年5月に飯舘村での営業を再開。氣まぐれ茶屋では、千栄子さん手作りの凍み餅・切り餅等の「餅」をメインとした食材等を提供し、地元の人たちが気楽に集える場を提供したいと考えています。どぶろくやつきたてのお餅の他、千栄子さんが真心を込めた田舎料理は美味しいと大変好評です。

Diner Bonds（ダイナーボンス）（飲食サービス業・南相馬市小高区）



代表取締役である鈴木一男さん



厨房の様子



地元産の前田ポークを使った
「とんかつ定食」

- 「Diner Bonds（ダイナーボンス）」の前身は、スーパー「すずきミート」。代表取締役である鈴木一男さんの父上が精肉店として創業後、昭和57年から精肉の他、魚や野菜、弁当販売も行うスーパーとして小高の住民から親しまれていました。
- 震災により、「すずきミート」は休業を余儀なくされました。鈴木さん家族は避難場所を転々としませんが、鈴木さんの望郷の念は強く、平成24年3月に単身で南相馬市の仮設住宅に入居。避難指示が解除された平成28年7月、小高区の自宅に戻りました。
- 鈴木さんは、「小高には飲んで食べる場所が少ない」「すずきミートの料理が食べたい」といった、先に帰還した住民の方々の声に押され、「Diner Bonds（ダイナーボンス）」を平成31年2月にオープンしました。地元産の前田ポークを使ったカツ料理は絶品です。

武ちゃん食堂（飲食サービス業・梶葉町）



店主の佐藤さんと奥様



厨房内の様子



看板メニューの「ニラレバ炒め定食」

- 昭和46年に開業した、J R 竜田駅前「武ちゃん食堂」を先代から引継いで30年。2代目店主の佐藤茂樹さんと妻の美由紀さんが二人三脚でやってこられ、長年町民に親しまれてきましたが、震災により避難を余儀なくされました。
- 震災後、平成26年7月から平成30年5月までは、仮設商業共同店舗「ここなら商店街」で、一時帰宅する町民の方々や復興作業関係者、避難指示解除後に帰還された町民の方々のお腹を満たし、心に安らぎと元気を与え続けました。
- 平成30年8月、「武ちゃん食堂」は7年半ぶりに竜田駅前（西口）に新店舗を構え再開しました。看板メニューのニラレバ炒め定食は、先代から受け継ぐ“たれ”を使ったちょっと濃い目の味付けで、ご飯がよく進みます。各種定食・麺類に加え、仮設店舗では提供できなかったカツ丼やカツカレーチャーハンなども復活しました。

テラス石森（一般社団法人Switch）（テレワークセンター・田村市）



代表理事の久保田さん



「テラス石森」(旧石森小学校)



多目的スペース

- 「テラス石森」は、田村市出身・在住の若者で構成される「一般社団法人 Switch」によって運営されています。田村市における新ビジネス、雇用、学び、そして交流の場として、廃校となった旧石森小学校を活用して作られ、県内初の複合型テレワークセンターとして、平成30年3月にオープンしました。
- 平成31年4月現在、入居しているテナントは9社。様々な業種の企業がサテライトオフィスとして利用しています。また、被災12市町村以外からの人の呼び込みを活性化するため、相双地域で創業しようと考えている方の支援拠点としても活用しています。
- 入居テナントは随時募集中です。また、コワーキングスペースや多目的スペースでは「空き家セミナー」、「WEBライター講座」、「異業種交流会」など、学びや地域交流を目的とした多彩なイベントが開催されています。

豊嶋歯科医院（医療業・浪江町）



豊嶋先生



外観



ロゴマーク

- 豊嶋歯科医院は、院長である豊嶋先生の父上が、戦後間もない昭和24年に浪江町で開業しました。以来、長年にわたって、地域の歯科医療に大きな貢献をしてきました。
- 震災後は、県内外の避難先を転々としながらも、歯科治療に携わり続けるその傍らで、浪江町の避難指示が解除され、町へ戻って診療所を再開することを、奥様と共に待ち望む生活を送っていました。
- 浪江町の避難指示解除後、再開に向けた検討を本格的にスタートさせ、平成30年8月、遂に再開を果たしました。「豊嶋先生は時間をかけて丁寧に診てくださるのでとてもありがたい」と、町内だけでなく町外の方からも、頼りにされています。今後の活動については、「検診などの予防医療を診療メニューの一つに加え、ますます地域に密着した、充実した歯科医療を提供していきたい」と、豊嶋先生は意気込んでいます。

陽なたぼっこ（飲食サービス業・檜葉町）



オーナーの吉田さん



落ち着いた雰囲気店内



和漢膳料理のランチメニュー

- オーナーの吉田さんは震災前、檜葉町にある柏屋旅館で女将をしていた頃から、「食によって健康管理ができないか」という思いがあり、薬膳の資格、食育の資格を取得し食事を提供されていました。
- 震災後、檜葉町へ帰還された知人から「高齢による疲れなどからつつい食事の疎かになってしまう」という声を聞き、「帰還をきっかけに、食と身体にきちんと向き合って前進していただきたい」、「町民の皆さんの健康を、少しでもサポートできるような料理と、ゆっくりくつろげるような場所を提供したい」との思いから、『陽なたぼっこ』の開業を決意しました。
- 地産地消を目指し、地域の方々のご協力を得て、新鮮野菜を中心とした料理を提供しています。お店のメインは和漢膳料理。食事と合わせて食材の効能や料理の仕方について、気軽に教えてくれる場所になっています。

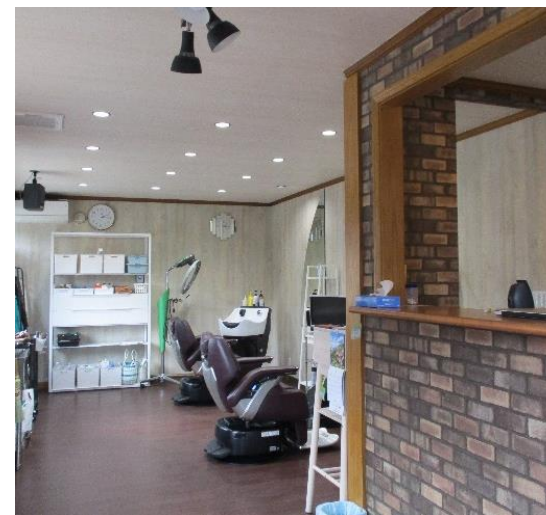
ヘアサロン花井（理容業・飯舘村）



事業主の花井さん



店舗外観



店内の様子

- 「ヘアサロン花井」は震災前、現代表の花井さんご夫婦と創業者である母上の三人で営んでいました。地震発生時は、停電により髪を乾かす事が出来ず、施術途中で帰宅されたお客様がいるほど混乱に陥りました。
- 避難を余儀なくされた一年後、川俣町にテナントを借り仮店舗として営業を再開。お客様のほとんどが以前の常連客で、それぞれの避難先からわざわざ足を運んでくださり、互いの近況などを話し合っていました。
- 仮店舗での営業再開から約5年が経過した、平成29年7月に飯舘村に帰還。店舗のリフォームを行い営業再開を果たしました。避難解除がされた今でも、まだまだ帰還者が少なく、現在も村外から来店されるお客様が多い状況ですが、感謝の気持ちを忘れずに前向きに営業を続けています。

ベーカリー リヴィエール（飲食サービス業・川内村）



店長の及川秋奈さん(右)ご夫妻と
店員の横山さん



店舗外観



人気の食パンが並ぶコーナー

- 店長の及川秋奈さんは、幼い頃からの夢だったパン屋開業に向け、長野県軽井沢町の老舗パン屋「浅野屋」で修業を積みました。川内村へ戻り、開業を目指していたところ震災に見舞われ避難を余儀なくされました。
- 避難中、父上の井出茂さんが単身川内村へ戻り、家業の「小松屋旅館」再開に向け取り組んでいる姿を見て、自身も「人が気楽に立ち寄れる、川内村の憩いの場」となるパン屋開業の思いを更に強くされました。
- 平成31年4月22日、念願だった川内村で「ベーカリー リヴィエール」をオープン。川内村の水と食材を使って、出来立てのパンを村内外の方が気軽に立ち寄って食べていただきたいとの思いから、販売のみでなくイートインコーナーも設けました。お店のおすすめは、食パン・あんぱん・メロンパン。お客様からも大変好評です。

ぽてと（株式会社まつばら）（飲食サービス業・南相馬市原町区）



代表の松原さん



従業員の皆さま



バラエティ豊かなお弁当

- 「ぽてと」を運営している「株式会社まつばら」は、震災前から南相馬市原町区で会議や催事、お祝い事などの各種イベント用のお弁当やオードブルの製造・販売を営んでいました。
- 代表の松原さんは、震災後、昔からたくさんの注文をいただいていた浪江町の方々を、どうか支援できないかと考え、いまだ飲食店が少ない浪江町で、栄養たっぷりの美味しいお惣菜を提供することが恩返しになるのではないかと思います、町内での出店を決意。平成30年5月、浪江町役場近くに店舗を構え、営業を開始しました。
- 陳列棚に所狭しとお弁当・お惣菜が並びます。リーズナブルな価格や「添加物や着色料を一切使用しない」というこだわりだけではなく、大型スーパーやコンビニには真似できない、真心のこもった家庭的な味が人気を呼んでいます。

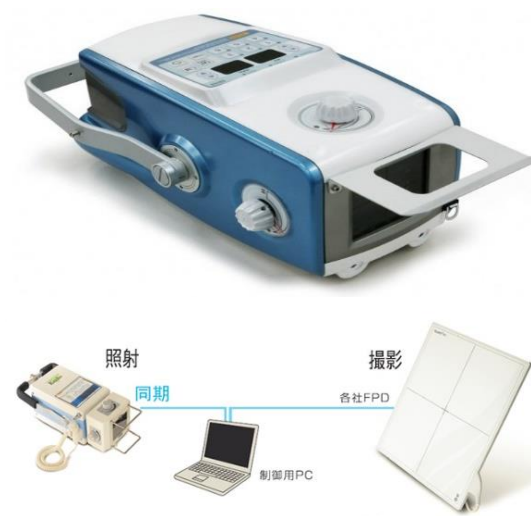
南相馬アニマルクリニック（獣医業・南相馬市原町区）



院長の上手(かみで)健太郎さん



車両に装備した医療機器



車載のポータブルX線装置一式

- 南相馬市では、平成27年に大型動物を診る獣医が不在となり、飼育する馬の数が減少しました。神事である相馬野馬追が衰退し、住民の参加意欲の低下や住民帰還の遅れが懸念されていたなか、平成28年に南相馬市に馬の往診に来ていた上手さんは、当時の南相馬市長や相馬野馬追功労者から、南相馬市での開院の誘いを受けました。
- 上手さんは平成7年に発生した、阪神・淡路大震災の被災者であり、同様に被災した南相馬の復興と発展の力になりたいとの思いで、平成29年7月に「南相馬アニマルクリニック」を開院。
- 開院後、厩舎で使用できる移動式のレントゲン機器などを車両に装備し、往診先で精密な診断や手術が可能となったため、馬を所有されている方々は安心して飼育いただける環境が整いました。

居酒屋 美穂（飲食サービス業・川内村）



店主の猪狩美穂子さん



店舗外観



クリスマス会での一コマ

- 事業者の猪狩美穂さんは、平成12年に川内村で「居酒屋美穂」を開業。猪狩さんの人柄から村内をはじめ、川内村外からもお客様が来店し、お店はいつも賑わっていましたが、震災により一時避難を余儀なくされます。
- 震災直後の川内村には食事を提供できる施設がなく、「少しでも力になれば」と店舗を改装し、平成23年11月より復興関係の作業に従事する方々に食事の提供を開始しました。その後、震災前のように村民の憩いの場を提供したいとの思いから、平成29年7月、休業していた居酒屋の営業を再開しました。
- 再開後は、村民の笑顔が店内に戻り、川内村外からの住民も震災前と同じように来店してくれるようになりました。クリスマス会の開催や、昼間はお店の設備を利用したカラオケ教室を開催するなど、住民が気軽に集える貴重な場となっています。

社会福祉法人友愛会（福祉・富岡町→広野町）



林 久美子 理事長



光洋愛成園



こんにゃく製造の様子

- 平成2年6月、富岡町でサービスを開始した「社会福祉法人友愛会」。平成3年6月には、知的障害者入所更生施設「光洋愛成園」を開設、その後、日中活動支援施設「ワークセンターさくら」など複数の施設を開設していきました。
- 震災後、三春町に一時避難をした後、群馬県高崎市の「国立のぞみ園」へ2次避難しました。避難の1年後から双葉郡への帰還に向けた準備を開始し、平成28年5月に広野町での再開を果たしました。
- 現在、双葉郡内では唯一、障害福祉サービスを手掛ける施設として、「光洋愛成園（生活介護）」、「ワークセンターさくら（就労支援）」、「サポートセンターゆうあい（グループホーム）」を広野町で運営しています。なお、ワークセンターさくらで製造されたこんにゃくは、大手スーパーやJ A、道の駅などで購入することができます。

食事処 輪（りん）（飲食サービス業・双葉町→いわき市）



経営者の小川さん



小川さんが描いた輪の壁画



人気のローストチキン定食

- 経営者の小川貴永さんは震災前、双葉町で養蜂業（小川養蜂）を営み、ハチミツやハチミツを使った加工品を製造販売する傍ら、仲間と双葉町の海水浴場内に農家レストランを開業する準備をしていたところ、震災に見舞われました。
- 避難生活を余儀なくされましたが、双葉町への思いは強く、いわき市内の双葉町復興住宅と隣接した商業施設で出店者を募集すると聞くと、すぐさま入居の応募をし、平成30年7月、「食事処 輪（りん）」をオープンさせました。
- メニューは、伊達鶏や川俣シャモといった福島県産にこだわった鶏料理がメイン。伊達鶏のローストチキンは、皮目がパリッと焼けてボリューム満点です。連日、復興住宅にお住まいの方や地元住民の方で賑わっています。



発行 / 公益社団法人 福島相双復興推進機構(福島相双復興官民合同チーム)
編集 / 総務調整グループ広報課
〒960-8031 福島県福島市栄町6番6号 NBFユニックスビル4F
TEL:024-502-1115

ホームページ
<https://www.fsrt.jp/>



公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/>

facebook

